

品川郷土の会 会報

令和3年(2021)11月

復刊第119号

発行人坂本道夫

編集人野口健夫

第466回例会

新型コロナ禍も落ち着いた11月27日午後、品川歴史館企画展参観を目的にした第466回例会を開催しました。好天に恵まれ、鈴木真澄相談役、会員外、初参加を含め12名が参加しました。

久しぶりに参加した鈴木真澄相談役の挨拶の後、参観前に、坂本道夫会長から企画展「変わりゆく品川の風景」の展示品、絵葉書や浮世絵に関する概要説明があり、その後、坂本会長や野口副会長の案内で特別展を約1時間にわたり参観しました。

参加者にとって、より関心のある展示内容や資料は異なりますが、展示された過去を振り返る写真、絵画、地図は興味深いものだったと思います。

浮世絵などの展示内容は会期中に入れ替えがあり、以前すでに参観した方にも参考になったようです。



坂本会長による参観前の概要説明

企画展参観後、有志で、史跡としては、比較的地味なスポット、鹿島神社旧殿、徳富蘇峰揮毫石柱、滝王子稻荷用水に架かる橋梁跡、品川用水大井村分水跡、日枝神社内道標、中世街道跡、八景坂鎧掛け松跡、天祖神社大野景山詩碑、松井岩根大将揮毫石柱、馬込文士村レリーフ、大森駅鉄道院鉄柱、海苔記念碑、品川区モニュメントを参観しました。



品川歴史館全景



鹿島神社旧殿参観風景

品川ケーブルテレビ・しながわアイ放映

前号で紹介した通り、10月21日10時から13時まで、地元出身芸人のタカガキがMCを務める品川ケーブルテレビ・しながわアイの取材で執筆の一部を担当した野口副会長が対応して写真集と現在状況の比較を撮影したロケ内容は11月第1週、数回にわたり放映されました。



品川神社前でのロケ風景

当会関連団体などの動向

「智恵子抄」総選挙

智恵子のまち夢くらぶ 代表 熊谷 健一

詩集「智恵子抄」は昭和16年8月20日に龍星閣より出版されました。詩29編、短歌6首と随筆「智恵子の半生」「九十九里の初夏」「智恵子の切抜絵」から構成されています。智恵子没後3年後のことです。又、詩集「智恵子抄その後」は昭和20年4月の東京大空襲で自宅を焼失し、岩手花巻の宮沢家らの招きで花巻へ行くも8月の花巻空襲

で宮沢家も被災。同年10月に太田村山口の山小屋で昭和27年10月まで7年間の独居自炊の生活を送る中で昭和25年11月20日に龍星閣より出版されました。



「智恵子抄」総選挙は出版80周年記念事業として本年令和3年4月2日より10月31日まで、一番心に響く作品を

全国の方々に投票を呼びかけました。(開票は11月8日に実施)投票いただいた方々に心から感謝を申し上げます。

結果発表(投票総数 584 票)

順位	作品名	投票数
1位	レモン哀歌	140 票
2位	あどけない話	127 票
3位	樹下の二人	117 票
4位	人に	66 票
5位	風に乗る智恵子	18 票
6位	僕等	9 票
6位	千鳥と遊ぶ智恵子	9 票
6位	亡き人に	9 票
9位	深夜の雪	8 票
9位	あなたもだんだんきれいになる	8 票

以下11位から32位は省略しました。

勿論、順位は各人の好みであり、作品の優劣を決めるものではありません。どの作品も不朽の名作に変わりありません。これを機に「智恵子抄」が一般の皆様にも更に愛読されるのを願っています。

「智恵子抄」出版 80 周年記念公演

演題：朗読劇「智恵子抄」

場所：二本松市安達文化ホール

日時：12月12日(日)14:00、16:30 2回

入場料：3500円(前売3000円)

出演：一色采子、横内正、山吹恭子、喜多村次郎

主催：松竹株式会社

共催：二本松市教育委員会

価格：1650円(税込)

発売日：2021年11月4日

ISBN：978-4-8667-3275-6

郷土・郷土史関連図書情報

地元や郷土史に関連する新刊図書を紹介します。興味のある方は、品川歴史館、書店等で購入するか、近くの図書館で閲覧下さい。なお、区内図書館は事前に COVID19 の閲覧制限を確認の上お出かけください。

1. 地図で読み解く東京

こんな東京知らなかったというアルアルを地図と地勢から見て、巨大都市の形成過程を知る本です。

東京の地形と歴史、町の成り立ちを紐解いて、住んでいても見過ごしがちな事実を掘り起こしています。

貴重な地図資料や写真とともに、首都・東京の全般を深く知ることができる一冊ですが、品川区関係は良く知られていることやテーマが多く新鮮味がない気がします。

著者：岡田 直

出版社：三才ブックス

判型：A5判

頁数：160頁

2. 東京 23 区×格差と階級

田園調布や六本木ヒルズ、山谷地区やシャッター通り、ホームレスが住む公園まで。東京 23 区内をほんの数キロ歩くだけで、その格差の宇宙が体感できてしまう。東京は、世界的にみて、もっとも豊かな人々と、もっとも貧しい人々が住む都市だ。そんな階級都市としての性格を強める 23 区の姿を明らかにし、そこに潜む危うさをいかに克服するかを探る本。品川区は中の上に位置する区で際立った特徴が探し難いようです。

著者 橋本 健二

出版社 中央公論新社

価格 1012円(税込)

頁数 336頁

発売日 2021年9月9日

判型 新書版

ISBN 978-4-12-150741-9

3. 東京に生きた縄文人

1 万年以上の長きにわたって続いた縄文時代。この時代に生きた縄文人の暮らしを伝える展覧会「縄文 2021 -東京に生きた縄文人-」が、江戸東京博物館で開催された。これはその図録である。東京の縄文時代を出土品や調査結果より考える展示は実に 30 年ぶりとなる。大森、日暮里、落合、雪ヶ谷…。遺跡の名前が東京の人にとっては親しみのある地名が並び、縄文人と同じ場所に住んでいるのだとの感慨があり

ます。本書では、展覧会の内容に加え、館長である藤森照信氏と考古学者の山田昌久氏の対談などが掲載され、考古学の新しい楽しみ方ができる1冊となっています。第1章 東京の縄文遺跡発掘史に大森貝塚関係情報が掲載されている。

編集：東京都江戸東京博物館

編集協力：東京都埋蔵文化財センター

出版社：TOTO 出版

発行日：2021年10月

版 型：B5 判変形（190×250mm）

頁 数：156 頁

定 価：2,640 円(税込)

ISBN=978-4-88706-391-4

当会ほか関連行事について

品川郷土の会

年次総会兼第467回例会お知らせ

次回第467回例会は、例年通り、総会を兼ね下記の通り実施します。新年会はコロナ禍を鑑み、今回も見送ります。会計報告以外は未定です。詳細内容・出欠確認は、追って往復はがきで、ご案内いたします。

日 時：1月29日(土) 13時30分-

場 所：中小企業センター3階中会議室

演 題：未定

講 師：未定

参加費：500円(別途年会費2000円)

荏原七福神巡り

令和4年1月3日、例年通り実施されます。当会は会員の高齢化で先導に支障をきたすようになり、一斉参拝の主催と先導を辞退することにしました。一斉参拝ご希望の方は、各自、区広報誌などで開催内容確認の上、ご参加ください。

第13回 品川宿史談会講演会 中世港町から東海道品川宿へ 品川のまちはどのように変遷したか

講 師：品川歴史館専門委員 柘植信行氏

場 所：品川区第一地域センター集会室

日 時：令和3年12月12日(日)14時

定 員：40名

参加費：1000円

主 催：品川宿史談会

後 援：旧東海道品川宿周辺

まちづくり協議会

申込み：「品川宿交流館」受付窓口

会 員 訃 報

当会創設時から参加され、永い間、会運営にご尽力頂いた天野喜市様は令和3年10月16日、81歳で永眠しました。生前のご尽力に感謝し、ご冥福をお祈り申し上げます。

(復刊119号おわり)